

医療・介護・福祉・子育てなど 厚生労働省関連情報のEBPM実現 に向けた課題整理

2016・10・28

橋本英樹 東京大学大学院医学系研究科
(文責)

厚労省関連施策とEBPM

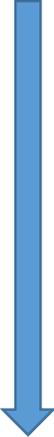
- 医療・年金など社会保障のFinancial space確保とfinancial managementの課題
- 子育て・雇用均等など総活躍ポリシーのインフラ設計
- 格差・貧困対策(特に子どもの貧困対策)など
- 医療技術の革新を進める制度インフラ
- 起こりうる危機(新興感染症など)への対策
- 健康関連産業の振興(トクホや機能製品などの安全性)

「統計」とEBPM; 制度的課題分類

- 統計法上の調査・加工統計の「結果」
 - 統計法上の調査・加工統計の「調査票情報」「ソースデータと加工プロセス情報」
-
- 統計法上ぎりぎりの政府業務統計
 - 統計法に含まれていない政府業務統計
 - 統計法に含まれていない(主に民間)の情報

線より上はクオリティ(妥当性・スピードなど)の問題
線より下はデータ管理やアクセスの問題が主

「統計」とEBPM: 機能的課題分類

- 
- 情報がそもそも収集されていない
 - 収集されているが技術的に使えない状態にある
 - 収集され技術的に使えるがアクセス許可されない
 - 収集され技術的にも使えるのに使われていない

下に向かうほど技術的問題よりは
運用上の問題が主になる

(EBPM上必要なのに) そもそも収集されていない

- 子育て支援法関連
 - 小規模保育・家庭的保育(保育ママ)導入の際の自園調理の課題(アレルギー児対応)、卒園後連携施設の設定の制度設計など事前調査なしにやっている
- 子どもの貧困対策推進法関連
 - そもそも自治体レベルでの貧困率は数字がない
- 医師キャリア、プロフィール情報
 - 医師数だけが調査されていて医師分布に影響するキャリア選択を左右する要因について情報収集されていない
- 外国人労働力
 - 外国人技能実習制度の問題について系統的調査がない

されているけど技術的問題のため使えない
(主に業務統計)

- 全国レセプトデータベースと特定健診データベースの
リンケージ
 - 特定健診による医療費適正化を見るうえで重要だが、リンクIDのバグのために10%程度しかリンクできていない
 - なお「高確法」扱いなので、介護給付実態調査などとのリンクは図れない
- 全国レセプトデータベースの個票利用事業
 - 利用希望は増えているが、作業委託業者の人員配置・技術的問題で事実上利用が進まない
- DPCデータの経年情報
 - カテゴリーが点数改定のたび変わってしまうが転換表が公的に存在しないため疾病別経年分析ができないものがある

技術的に使えるがアクセス不可

- 協会けんぽの情報
 - 統計法によらない研究者の個別アクセス
 - 社会保険庁時代は厚生科研などではアクセスできたが民間化後は受け付けてもらえない
- DPCデータ(レセプト以外の様式1情報)
 - 本来「承認統計」であるにもかかわらず、いまだに一般利用は許されていない(利用料だけでなく、医療の質・効率性分析に有効なのは研究班などの臨床研究から明らかなのだが)
 - 内閣府が利用申請したときにも却下されている
 - 実は技術的問題がある？

ちなみに米国だと

- 高齢者公的医療制度レセプトデータベース (MEDPAR)
 - 簡易データから詳細情報データまで利用可能(審査有)
 - 死亡統計・がん登録などとのリンクも可能
 - 解析支援センター(ResDAC)は24時間体制で支援
- National Inpatient Sample
 - ほぼ全国の病院退院症例の病名・手術・重症度情報と利用料の20%確率論的サンプル
 - 海外にも500ドル程度で販売・入手可能
 - ICD9CMほかコードの変更に合わせて、カテゴリー処理のためのプログラムを公開(ダウンロードできる)

使えるのに使われていない

- 全国レセプトデータベース
 - より詳細な地域別・疾病別医療費推計ができるはず
- 国民生活基礎調査
 - 健康格差や医療アクセス格差などのモニタリングに利用可能だが統計としては発表されていない(おかげで学術研究は成り立っているが)
- 人口動態統計
 - 個人情報保護法施行以降、疫学調査などでの死因同定目的のための住民票請求にもとづくリンクが困難に(本来法律上は除外規定にあたるはずだが)